

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員からお知らせします。

営農指導員の  
ワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 譲

秋冬野菜栽培の準備を  
行いましょう!!

春夏野菜の収穫が終われば、前作の古い葉や残り株を集めてほ場に持ちだし、害虫や病原菌の発生源を除去しましょう。ほ場の準備は早めに行いましょう。

湿害対策を行いましょう

秋になれば秋雨前線が停滞します。水はけの悪いほ場では、あらかじめほ場の外側に溝を切ったり、高畦を作ったりして湿害対策をしておきましょう。

あらかじめの病害対策

連作を避けるようにほ場を選びましょう。とくにアブラナ科の野菜（ハクサイ、キャベツ、ブロッコリーなど）は連作をすると根こぶ病（※）などの土壤病害が多発する恐れがあります。根こぶ病発生ほ場は、栽培する場所をかえましょう。

石灰資材の上手な使い方

土壌中の石灰の過不足で病気の発生が助長されることがあります。何年も石灰を投入していない畑ではやや酸性の土壌になっていることがあるので、石灰資材を投入しましょう（苦土石灰1アール

当たり10〜15キロ）。特に、土壌が酸性に偏ると根こぶ病の発生を助長するため、必ず石灰資材を投入しましょう。

有機物の上手な施用の仕方

堆肥（有機物）の効果は急に現れないので、毎作施用し続けましょう。また、化学肥料ばかりで栽培を続けると、土が硬く締まりやすくなってしまう。

土づくりのために、よく熟した有機物を適正（1アール当たり200〜300キロ）に施します。堆肥の過剰施用や、未熟な有機物の投入は、病害虫の発生を助長します。

木質堆肥は分解しにくく、未熟な物を大量に投入すると有機物の分解に窒素が奪われるため、作物は一時的に窒素不足となり、生育の抑制が起こったり（窒素飢餓）、病害虫の発生を助長したりします。石灰窒素などと混合して積み置きし、腐熟を促進してから使うようにしましょう。

木質牛糞堆肥は肥料成分が比較的少なく、繊維質が多いので土壌の物理性改善に役立ちます（耕土の深い柔らかい土）。

問い合わせ

農業振興課農業振興係  
0824・73・1132

（※）根こぶ病：根にこぶができて養水分の吸収ができなくなり、地上部の生育が悪くなりしぼんで枯れてしまいます。

第5話

比婆いざなみ街道物語



街道沿線に存在するさまざまな資源をシリーズでお伝えする「比婆いざなみ街道物語」。

今月から3回に渡って、いざなみツク2019比婆いざなみ街道マラニックのコースの見どころをご紹介します。

今回は比和地域の見どころをご紹介します。

スタート・ゴール  
「比和総合運動公園」

比婆山連峰の南西にそびえ、パワースポットの「滝」が4つもある福田頭。その麓に位置する比和総合運動公園には、多目的広場、野球場、体育館があり、屋内・屋外の各種スポーツやイベントなどに利用できます。隣接地に和風の宿泊施設「かさべるで」とキャンプ感覚で宿泊できる「コテージ棟」があり、夏のシーズンには高校や大学のスポーツ部が長期合宿などで利用しています。

秀峰「吾妻山」を眺める

マラニック大会のコースからは比婆道後帝釈国定公園にある、神話のパワースポット、吾妻山を眺めることができます。



イザナキノミコトが比婆山に眠

るイザナミノミコトへ「ああ、吾が妻よ」と呼びかけたという言い伝えがあります。ブナの原生林が茂り、イワカガミなど高山植物の宝庫です。

標高千メートルの地点に、休暇村吾妻山ロッジがあり、吾妻山への登山やハイキングの基地として利用できます。

比和のまちなかを走りぬける

たたら製鉄を中心に繁栄した比和地域。江戸時代には出雲路の宿場町にも指定され、明治後半には、各地域で行われていた牛馬市が比和の市に統合し、大変な賑わいを見せていました。

比和の「まちなか」には、信仰のパワースポットとしての社寺が多く、市街地を見下ろす場所に位置する比和山八幡神社は、イザナミノミコトをまつるため建立し、比婆宮と称したと伝えられています。



往時のにぎわいに思いをはせながら、比和のまちなかを駆け抜けてみませんか？

問い合わせ

いちばんづくり課いちばんづくり係  
0824・73・1278